

分野	授業科目	単位(時間)	進 度	担 当
専門基礎分野	治療論Ⅱ	1 (15)	1年後期	平 敏裕 実務経験あり
科目目的	リハビリテーションの概念と技術を理解する。			
科目目標	1. リハビリテーションの概念と対象者を理解し、看護におけるリハビリテーションの意義を理解する。 2. 具体的なリハビリテーションの技術を理解し、臨床看護の実践に役立てる。			
単 元 名	教 育 内 容	時間	教育方法	留意点
1. リハビリテーションの概念	1) リハビリテーションの定義と理念 2) 障害者の実態 3) 障害の分類と構造 4) 障害者に対する施策の変遷と基本理念	2	講義	視聴覚教材（ビデオ、イラスト、図表）を活用し、臨床的な内容の理解を促進し、疾患、看護の知識の体系化、深化に役立つようにする。
2. リハビリテーションの対象の理解	1) 運動器系の障害 骨折、関節リウマチ 2) 中枢神経系の障害 脳血管障害、パーキンソン病、脊髄損傷 3) 呼吸・循環器系の障害 慢性閉塞性肺疾患、虚血性心疾患 4) 感覚器の障害 視覚障害、聴覚障害	2	講義	
3. リハビリテーションの方法と実際	1) リハビリテーション療法の概要 2) 片麻痺患者のリハビリテーション (1) 片麻痺患者の特徴 (2) 廃用症候群の予防 良肢位の保持、関節可動域訓練、在位訓練 (3) ADL訓練 起居動作、移乗動作 3) 脊髄損傷のリハビリテーション (1) 脊髄損傷患者の特徴 (2) 脊髄損傷のリハビリテーション 寝返り動作、起き上がり動作、 プッシュアップ動作、直角移乗、横移乗 4) 関節リウマチ患者のリハビリテーション (1) 関節リウマチ患者の特徴 (2) 関節リウマチ患者のリハビリテーション 摂食動作、洗顔ブラシ、更衣、歩行補助具、靴	10	講義 演習	障害状況に応じたり ハビリテーションの 実際を実技の見学、 演習を交えながら体 験し、理解させる。 リハビリテーション に必要な器具、器材 等を学生に提示し、 理解を促す。
4. 試験		1		
テキスト／その他の教材	系統看護学講座「リハビリテーション看護」(医学書院)			
評価方法	筆記試験 100 点で評価する			